

撮影監督 Cinematographer
Mitsuo Miura

三浦光雄

4/8 [火] — 5/11 [日]

会期中の休館日：月曜日

国立映画アーカイブ

長瀬記念ホール OZU [2階]

定員=310名(各回入替制・全席指定席)

各回の開映後の入場はできません。

協力：日本映画撮影監督協会 [上映会番号483]



撮影監督 三浦光雄

Cinematographer Mitsuo Miura

光と影の交錯がもたらす階調豊かな画と美しい構図のカメラによって、映画撮影を芸術的創造の領域まで高めた三浦光雄(1902-1956)。日本間に差し込む柔らかい光を捉えるために、暗部を強調したライティングを採用するなど、たえず新しい撮影技法を追求しながら、戦前・戦中・戦後の日本映画に真に的確な表現を与え続けました。

三浦のキャリアは、国際活映(国活)巣鴨撮影所現像部に現像助手として入社した1919年に始まります。1921年に撮影助手に転じ青島順一郎らに師事した後、同年に移籍した松竹では、島津保次郎とのコンビで知られる桑原昂の軟調のカメラに大きな影響を受けます。『空は晴れたり』(1925、五所平之助)で撮影デビュー後、五所に画面構成を委ねられコンビを確立、創意溢れる撮影で“蒲田調”に新風を吹き込みます。1928年には半年間にわたりハリウッドに遊学し、翌年の帰国後第1作『新女性鑑』(五所)以降、持ち帰ったレンズ各種を駆使して、詩情豊かな画調にリアリスティックな表現を加味していきます。1931年には、当時人気の中心だった鈴木傳明らが松竹を去って不二映画を設立した際に行動をともにし、次いで新興キネマ(1932)、日活(1933)、入江ふろどくしょん(1934)、P.C.L.(1937)を経て東宝に転籍、山本嘉次郎、衣笠貞之助、成瀬巳喜男、豊田四郎ら時代を代表する名匠の作品を中心に、生涯を通じて100作品あまりの撮影を手がけました。

戦中期には、暗さの限界において陰影の美を描きだした『川中島合戦』(1941、衣笠)で映画撮影技術賞(日本映画撮影者協会)を受賞、戦後復興期の本格的メロドラマ『今ひとつの』(1947、五所)でもその甘美な画調で日本映画技術賞(撮影賞・日本映画技術協会)を受けました。東宝争議で一時同社を離れた後、戦後日本の撮影技術の到達点を示した五所の『わかれ雲』(1951)から『煙突の見える場所』(1953・2度目の日本映画技術賞を受賞)にいたるスタヂオ・エイト・プロ作品を経て、大映で手がけた『雁』(1953、豊田)は、抒情とリアリズムが見事に融合した三浦の集大成となりました。さらに戦前から続く名コンビ、豊田との『夫婦善哉』(1955)における傑出した撮影により三たび日本映画技術賞を受賞。その顕著な功績を讃え、1957年に新人の優れた撮影者を対象とする「三浦賞」が制定され、日本映画撮影監督協会(JSC)による顕彰が行われています。

本特集では、無声映画『愛よ人類と共にあれ』(1931、島津)から遺作『猫と庄造と二人のをんな』(1956、豊田)まで、33作品(31プログラム)を上映することで、国内最高峰の撮影技術を遺した三浦光雄の業績を回顧します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

- 監=監督・演出 ◎=原作・原案 脚=脚本・脚色
- ◎=撮影 ◎=美術 ◎=音楽 ◎=出演
- スタッフ、キャスト欄の人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 上映分数は当日のものと多少異なることがあります。
- 不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
- NEWとある作品はニュープリントでの上映です。
- ♪の回は伴奏付上映です。★の回は講演がごあります。

1 4/12(土)16:30 4/26(土)12:00 ♪

愛よ人類と共にあれ

(241分・18fps・35mm・無声・白黒)

上山草人の帰朝記念として製作された超大作。山口鋼吉(上山)は企業グループを束ねる大社長として君臨。4人の子供がいるが、次男の雄(鈴木)は家族と距離を置き、また2人の娘婿(河村、奈良)は長男の修(岡田)を差し置いて、密かに会社の乗っ取りを企んでいた。歪んだ一族の関係が露わになる静かな前篇とは対照的に、後篇は舞台を樺太、アメリカにまで展開し、スケールの大きな撮影が見られる。

1931(松竹蒲田) 監◎三浦光雄 ◎島津保次郎 ◎村上徳三郎 ◎桑原昂、長井信一 ◎脇田世根一、河野鷹思 ◎上山草人、鈴木傳明、岡田時彦、光喜三子、河村黎吉、吉川満子、高峯秀子、奈良真養、竜田静枝、田中絹代、藤野秀夫、野寺正一、水島亮太郎、小林十九二、宮島健一、花岡菊子、マック・スエーン

途中に約15分間の休憩時間を設けます。

2 4/12(土)13:00★ 4/25(金)15:00 ♪

腰辨頑張れ

(38分・18fps・35mm・無声・白黒)

1930年にデビューした成瀬巳喜男の監督第8作にして、現存する最古の作品。しかない保険勧誘員を主人公にしたナンセンス喜劇でありながら、成瀬の現実への冷徹な目線が冴えている。幾何学的に画面を分割する過剰なモニタージュヤ、画をネガ像に反転させる実験的演出で三浦の技巧が存分に発揮されている。

1931(松竹蒲田) 監◎三浦光雄 ◎成瀬巳喜男 ◎山口勇、浪花友子、加藤精一、明山静江、菅原秀雄、関時男

嬉しい娘(51分・20fps・35mm・無声・白黒)

17歳にしてすでに日活時代劇部のトップ女優となっている山田五十鈴による数少ない現代劇の1本。前田商事の社長・秀造(山本嘉一)は、放蕩者として社内の評判が芳しくない息子の浩(杉)に社長の座を譲ろうとしている。そんな折、浩は偶然見かけた美智子(山田)に見惚れ、後をつけていくのだが…。簡易保険局の宣伝映画でありながら、軽妙なタッチが魅力的な小品。

1934(日活京都) 監◎三浦光雄 ◎千葉泰樹 ◎小國英雄 ◎榎原志げき ◎山田五十鈴、杉狂児、村田知栄子、山本嘉一、稲田春子、関時男、中村壽郎、山本冬郷、花野園子
★印の回は上映後に鷲谷花氏(大阪国際児童文学振興財団特別専門員)による講演(約50分)があります。

3 4/8(火)15:00 4/26(土)18:30 ♪

榮冠涙あり

(110分・18fps・35mm・無声・白黒)

大学漕艇部の選手たちの恋と友情を描いた青春劇。鈴木傳明らが松竹を退社して設立した不二映画の第1作で、三浦光雄も追従して松竹から移籍。競技場で煌めく水面の美しさが賞賛される一方で、特殊レンズを使用してデフォルマシオン(対象を歪曲させる技法)を試みるなど、新技術を積極的に導入する研究熱心な側面が窺える。本作で初めてクレジット表記が「三浦光雄」となる。

1931(不二映画) 監◎三浦光雄 ◎鈴木重吉 ◎久米正雄 ◎川口松太郎 ◎錦織斌、関口英雄 ◎鈴木傳明、英百合子、月田一郎、小村新一郎、木村健児、池上猛代子、横尾泥海男、吉谷久雄、関時男、山本冬郷



榮冠涙あり

4 4/8(火)19:00 4/29(火・祝)16:00

雁来紅(96分・35mm・白黒)

鈴木重吉が、イギリス映画『社長様のお出で』(1933、ジャック・ブキャナン)を翻案。入江たか子が自身のプロダクションを設立して取り組んだ初のトーキー映画で、ハワイアン風の歌や当時人気のダンスホール「フロリダ」でのジャズダンスなどがふんだんに盛り込まれ、音楽的な喜劇となっている。三浦は本作において、劇映画で初めて国産のフジフィルムを採用した。

1934(入江ふる) 監◎三浦光雄 ◎鈴木重吉 ◎久米正雄 ◎木村千依男 ◎小池一美、角田竹次郎 ◎仁木他喜雄、服部逸郎 ◎入江たか子、渡邊篤、伊達里子、汐見洋、田中筆子、菅井一郎、見明凡太郎、ヘレン・本田

5 4/9(水)19:00 4/29(火・祝)13:00

女人哀愁(74分・35mm・白黒)

封建的な旧家に嫁いだ女性の(入江)の苦悩と自立を描く入江ふろどくしょんとP.C.L.の提携第1作。三浦はこの作品をもってP.C.L.に転籍。野外撮影における街路風景と人物の構図のバランス、屋内撮影における奥行き表現、バーに集う客たちの会話を素早いパンとピント調整で見せるなど、シチュエーションに合わせた撮影の工夫が随所に見て取れる。

1937(P.C.L.=入江ふる) 監◎三浦光雄 ◎成瀬巳喜男 ◎田中千禾夫 ◎戸塚正夫 ◎江口夜詩 ◎入江たか子、堤真佐子、神田千鶴子、澤蘭子、水上伶子、清川玉枝、初瀬浪子、佐伯秀夫、大川平八郎、北澤彪、御橋公

6 4/9(水)15:00 5/3(土)12:00

白薔薇は咲けど(77分・35mm・白黒)

銀座の洋品店のお針子・篤子(入江)は、浮いた話で盛り上がる周囲を脇目に職場で爾々と仕事をこなす日々。しかし休日に偶然立ち寄った遊園地である男性(佐伯)と出会い、恋の予感を覚える。篤子の部屋に漂う陰鬱とした雰囲気、照明と美術を最大限に活かした三浦のカメラワークのうちに捉えられ、篤子の抱える葛藤を見事に表現している。

1937(P.C.L.=入江ふる) 監◎三浦光雄 ◎伏水修 ◎西條八十 ◎東坊城恭長、田中千禾男 ◎山崎醇之輔 ◎古賀政男 ◎入江たか子、佐伯秀夫、沢蘭子、北村季佐江、水上伶子、宮野照子、清川玉枝、御橋公、江戸川蘭子

7 4/10(木)14:00 5/3(土)15:00

禍福 前篇(78分・35mm・白黒)

1937(東宝東京) 監◎三浦光雄 ◎成瀬巳喜男 ◎菊池寛 ◎岩崎文隆 ◎北猛夫 ◎仁木他喜雄 ◎入江たか子、高田稔、竹久千恵子、逢初夢子、丸山定夫、英百合子、堀越節子

禍福 後篇(75分・35mm・白黒)

1937(東宝東京) 監◎成瀬巳喜男 ◎菊池寛 ◎岩崎文隆 ◎鈴木博 ◎北猛夫 ◎伊藤昇 ◎入江たか子、高田稔、竹久千恵子、逢初夢子、丸山定夫、大川平八郎、堀越節子

菊池寛のメロドラマ小説を映画化した、東宝と入江・高田両プロのユニット作品。外交官に採用された皆川(高田)は、慎ましく暮らす豊美(入江)と結婚の約束を交わしていた。しかし皆川は快活な令嬢・百合恵(竹久)に心惹かれ、実家の再興のために豊美を捨ててしまう。明るくフラットな調子に流れていた初期・東宝の画に、陰影の深みを与えた三浦の個性が際立つ。後篇の撮影は鈴木博が担当。

途中に約10分間の休憩時間を設けます。



雁来紅

8 4/10(木)19:00 4/19(土)15:20★ 5/2(金)12:00

藤十郎の戀(95分・35mm・白黒)

松竹からの移籍発表後、暴漢に左の頬を切られた林長二郎が、本名の長谷川一夫を名乗って出演した東宝入社後第1作。入江との共演も話題を呼び大ヒット。芸道のため、幼なじみの女将(入江)に偽りの恋を仕かけ、死に至らしめる名女形(長谷川)の物語を描く。屋外から差し込む柔らかな光に比して、暗部を強調した日本間のライティングが、三浦の流麗なカメラワークと相俟って劇的効果を高めている。初公開時は122分だったが、現存しているのは95分の戦後公開版。

1938(東宝東京)◎三浦光雄◎山本嘉次郎◎菊池寛◎三村伸太郎◎小村雪岱◎菅原明朗◎長谷川一夫、入江たか子、藤原釜足、汐見洋、御橋公、瀧澤修、小杉義男

★印の回は上映後に宮尾大輔氏(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)による講演(約40分)があります。

9 4/11(金)15:00 5/8(木)19:00

多基古村(63分・35mm・白黒)

井伏鱒二の同名小説の映画化。のどかな田舎の村を舞台に、村人たちが持ち込むさまざまな事件や相談ごとに実直に向き合う巡査(清川)の日常をユーモラスに描いている。時代劇スターとして長いキャリアをもつ清川荘司が本格的に現代劇に挑み好演。三浦は、これが3作目となる若き井正の演出を得て、開放的な自然風景と凝縮された画面の対比により抒情性を打ち出した。

1940(東宝京都)◎三浦光雄◎今井正◎井伏鱒二◎八田尚之◎中古智◎服部正◎清川荘司、深見泰三、大倉文雄、月田一郎、中村英雄、竹久千恵子、宇野重吉、瀧澤修、赤木蘭子

10 4/13(日)12:00 4/30(水)14:00

妻の場合[前篇・后篇](150分・35mm・白黒)

株の売買に野心を抱くサラリーマンの工藤(藤田)には、貞淑な妻・三千代(入江)がいた。一方、洒落な邸宅で満たされない家庭生活を送る科学者の新庄(高田)は、やがて三千代に想いを寄せていく。三浦の流麗なカメラが、装置や構図、巧みなライティングを活かして貧富の格差や世代間の対立を浮き彫りにし、波瀾に満ちたメロドラマを盛り立てている。

1940(東宝東京)◎三浦光雄◎佐藤武◎古屋信子◎東坊城恭長◎松山崇◎服部正◎入江たか子、高田稔、藤田進、里見藍子、椿澄枝、山根壽子、藤間房子、清川玉枝
途中で約10分間の休憩時間を設けます。

11 4/11(金)19:00 5/6(火・祝)13:00

虞美人草(88分・35mm・白黒)

中川信夫が東宝在籍末期に手がけた漱石文学の映画化。三浦は人物のアップを多用してスター俳優たちの競演を鮮やかに切り取りながら、人物の視線の交わりを丁寧にとらえ、6人の若い男女の揺れ動く関係を描出。パンショットやクレーンショットなどあらゆる撮影技法を駆使して緊密な画面をつくりあげた。

1941(東宝東京)◎三浦光雄◎中川信夫◎夏目漱石◎櫻田半三◎河東安英◎早坂文雄◎高田稔、霧立のぼる、伊藤智子、江川宇禮雄、花柳小菊、勝見庸太郎、花井蘭子、北澤彪、嵯峨善兵、玉井旭洋



藤十郎の戀

12 4/19(土)12:00 5/6(火・祝)16:00

川中島合戦(119分・35mm・白黒)

上杉謙信(市川)と武田信玄(大河内)の合戦を、上杉軍の荷駄組の百蔵(長谷川)らによる物資輸送の行軍を中心に、リアリズムで描いた戦時下の大作時代劇。三浦は疑似夜景用のフィルターを駆使し、密林の間をぬって延々と行進する鎧武者の大軍を白黒の強烈なコントラストの中に浮かび上がらせた。1932年に発足した日本映画撮影者協会の映画撮影技術賞を受賞。

1941(東宝東京)◎三浦光雄◎衣笠貞之助◎棟田博◎松山崇◎山田耕筰◎市川猿之助、大河内傳次郎、長谷川一夫、入江たか子、山田五十鈴、黒川彌太郎、徳川夢声、丸山定夫

13 4/15(火)15:00 5/7(水)19:00

をんをけいづ 婦系圖(108分・35mm・白黒)

泉鏡花原作のあまりにも有名な悲恋物語。山田五十鈴(お蔭)、長谷川一夫(主税)コンビにより2度目の映画化となったマキノ版では時局柄、情報局から製作に物言いがつき、主税が爆薬研究者という設定に変更された。初公開時は正篇101分、続篇83分の2部作。現在上映可能なフィルムはマキノ自身によって戦後再編集された108分の総集篇だが、月明かりでの湯島天神、新橋駅の別れ、お蔭の幽霊場面など、三浦ならではの階調設計が最大限に発揮された名場面が次から次へと登場する。

1942(東宝)◎三浦光雄◎マキノ正博◎泉鏡花◎小國英雄◎久保一雄◎鈴木静一◎長谷川一夫、山田五十鈴、古川緑波、高峰秀子、山本禮三郎、進藤英太郎、菅井一郎、小杉義男、瀧口新太郎、山根壽子、三谷幸子、田中筆子、澤村貞子、三益愛子、村瀬幸子

14 4/13(日)16:00 5/2(金)19:00

ハワイマレー沖海戦

(116分・35mm・白黒) NEW

海軍飛行兵に志願した少年(伊東)の成長物語を軸に、大日本帝国海軍によるハワイ真珠湾の米軍艦隊への奇襲とマレー半島沖での英軍艦隊への攻撃を描いた国策映画。円谷英二率いる特殊技術班の特撮はつとに有名だが、人物の表情の変化や市井の人々の所作を丹念に見据えた三浦のカメラワークが映画の情緒面を支えている。

1942(東宝映画)◎三浦光雄◎山本嘉次郎◎山崎謙太◎三村明、鈴木博◎丸谷英二◎奥野文四郎、松山崇、渡辺武、北猛夫◎鈴木静一◎大河内傳次郎、伊東薫、英百合子、原節子、中村彰、汐見洋、藤田進、河野秋武、菅井一郎、清川荘司

15 4/15(火)19:00 5/10(土)13:00

若き姿(81分・35mm・白黒・不完全)

朝鮮半島の中学校で生徒の日本人化教育に情熱を注ぐ教育者や兵士と、軍事教練に明け暮れる生徒たちとの日々を描く。国策で設立された「朝鮮映画製作株式会社」の第1回作品。だが、そのスタッフの多くは国内各社からの出向者だった。本作で三浦は往年に幾多の名作を生み出す名コンビの豊田四郎と初めて組んだ。さまざまなシーンでの影や闇の活用、雪中行軍演習など、撮影的な見所は多い。

1943(朝鮮映画)◎三浦光雄◎豊田四郎◎八田尚之◎五所福之助、高垣昇◎丸山定夫、月形龍之介、高山徳右衛門、佐分利信、龍崎一郎、永田靖、東山千栄子、三谷幸子、黄激、文芸峯、金玲



川中島合戦

16 4/16(水)15:00 5/1(木)15:00

明日を創る人々(83分・35mm・白黒)

東宝争議を背景に、労働組合の指導のもとに作られた劇映画。製鋼会社勤務の父、家計を支える母、撮影所でスクリーンをする姉、レビュー劇場の踊り子の妹といった一家の面々が、誠首や長時間労働といった問題に巻き込まれ、組合活動に意義を見出していく姿を描く。撮影監督は三浦含め3名の連記。多くのシーンで当時の東宝撮影所の様子がリアルに捉えられている。

1946(東宝)◎三浦光雄◎山本嘉次郎◎黒澤明、関川秀雄◎山形雄策◎伊藤武夫、倉倉泰一◎北猛夫、北川恵司◎伊藤昇◎薄田研二、中北千枝子、森雅之、竹久千恵子、志村喬、北澤彪、千葉一郎、椿澄枝、河野糸子

17 4/16(水)19:00 4/27(日)16:00

今ひとたびの(118分・35mm・白黒)

セツメント勤務医(龍崎)と令嬢(高峰)という社会階級の異なる男女が、戦前から戦後の激動の中で運命に翻弄されるさまを描くメロドラマ。三浦のカメラは、滑らかな階調によって正確にディテールを映し出し、物語のリリズムを喚起している。1947年発足の日本映画技術協会によって、最初の日本映画技術賞(撮影賞)に選ばれるなど、戦後日本映画が持ちえた撮影技術の極致として「軟調派」三浦の最高傑作と評されることも多い。

1947(東宝)◎三浦光雄◎五所平之助◎高見順◎植草圭之助◎松山崇◎服部良一◎高峰三枝子、龍崎一郎、田中春男、北澤彪、河村弘二、清水将夫、谷間小百合、一の宮敦子、中北千枝子、出雲八重子

18 4/17(木)15:00 5/4(日)16:00

東京の門(100分・35mm・白黒) NEW

原作は田村泰次郎による新聞連載小説。長らく豊田四郎の助監督を務めていた杉江敏男の初監督作品であり、宝塚歌劇団で名を馳せた越路吹雪の映画初出演作としても知られる。銀座界隈に蔓延る顔役や暴力団の暴露をする小新聞「銀座民報」を発行人立川真紀(越路)を中心に、都会の闇に生きる人々の姿を克明に描く。

1950(東宝)◎三浦光雄◎杉江敏男◎田村泰次郎◎北川恵司◎安倍盛◎越路吹雪、水島道太郎、澤村昌子、田崎潤、佐々木孝丸、村田知英子、村上冬樹、小杉義男、生方功、近藤廣

19 4/17(木)19:00 5/2(金)15:00

せきれいの曲(99分・35mm・白黒)

野心家の若き作曲家・島田(山村)は、その教え子の声楽家・藤川ユキ(轟)と熱烈な恋に落ち、彼女のために声楽曲「せきれいの曲」を書いた。だが一人娘ゆり(有馬)をもうけながらも2人は離別。島田は海外で一流指揮者となり、ユキは中学校の音楽教師をしなから必死に娘を育てていく。三浦の撮影は対照的な人生を送る2人のその後を、巧みな陰影表現で観る者の脳裏に印象づける。

1951(東宝)◎三浦光雄◎豊田四郎◎水木洋子◎北川恵司◎大木正夫◎轟夕起子、有馬稲子、山村聰、立花満枝、齊藤達雄、御橋公、村上冬樹、南美江、本間文子、三條利喜江、左ト全、大山健二、石黒達也



今ひとたびの

20 4/18(金)15:00 5/11(日)13:00

わかれ雲 (96分・35mm・白黒)

東宝争議後に五所が中心となって設立した独立プロ、スタジオ・エイト・プロダクションの第1回作品。旅先の小淵沢で病に臥せていた女子大生(沢村)が、人々のやさしさに触れて心身ともに回復してゆくという抒情的ドラマ。オールロケーションで撮影された広大な山や空、風に揺れる木々や木漏れ日などを見事に取り込んだ三浦による豊かな風景表現が、女学生の心理的变化の機微を際立たせている。可燃性オリジナルネガから作製した画質の良好なプリントを上映。

1951(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)◎三浦光雄◎五所平之助◎館岡謙之助、田中澄江◎久保一雄◎齊藤一郎◎沢村契恵子、沼田曜一、川崎弘子、三津田健、福田妙子、倉田マユミ、谷間小百合、岡村文子、中村是好

21 4/18(金)19:00 5/11(日)16:00

朝の波紋 (103分・35mm・白黒)

篤子(高峰)と二平太(池部)はともに貿易関係の企業に勤めていたが、中小と大手で、置かれた境遇はまったく違っていた。だが、先の戦争で恋人と引き裂かれるという共通の経験があった。嫉妬や誤解で反目しながらも、2人は互いの中に真実の姿を見つけようとする。三浦と五所はスタジオ・エイト・プロの2作(『わかれ雲』と本作)で日常の中の静かなユーモアと情感を追求していった。それがいよいよ次作(『煙突の見える場所』)で結実をみる。可燃性オリジナルネガから作製した画質の良好なプリントを上映。

1952(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)◎三浦光雄◎五所平之助◎高見順◎館岡謙之助◎進藤誠吾◎齊藤一郎◎高峰秀子、池部良、岡田英次、岡本克政、三宅邦子、沼田曜一、澤村契恵子、高田稔、滝花久子、上原謙、香川京子

22 4/22(火)15:00 5/4(日)13:00

春の囁き (92分・35mm・白黒)

瀬戸内から上京してきたジャーナリスト志望の大学生・幸次(鈴木)は、刺激的な都会生活の中で、才気煥発な新聞部員の伸子(岡田)に淡い恋心を抱く。一方で、地元に残る幼馴染の八重子(遠山)とは価値観の違いが残酷なまでに顕著となっていく。東京映画目黒撮影所の第1回作品。

1952(東京映画)◎三浦光雄◎豊田四郎◎植草圭之助、古川良範◎安倍輝明◎芥川也寸志◎三國連太郎、鈴木孝次、岡田茉莉子、遠山幸子、青山京子、久保明、三津田健、中村是好、千石規子、浦邊糸子、二本柳寛

23 4/20(日)13:00 5/1(木)19:00

煙突の見える場所 (108分・35mm・白黒)

敗戦後の東京・千住界隈を舞台に、突如出現した赤ん坊に翻弄される夫婦(田中絹代、上原)と下宿人の若い男女(高峰、芥川)を中心とする市井の人々の姿を描いた五所平之助ならではの小市民劇。三浦は主要人物が暮らす粗末な一軒家の上下の空間を自在に切り取ることに、象徴的な「お化け煙突」を都度、表情豊かに捉えている。可燃性オリジナルネガから作製した画質の良好なプリントを上映。

1953(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)◎三浦光雄◎五所平之助◎椎名麟三◎小国英雄◎下河原友雄◎芥川也寸志◎田中絹代、上原謙、高峰秀子、芥川比呂志、関千恵子、田中春男、花井蘭子、浦邊糸子、坂本武、三好栄子、中村是好



煙突の見える場所

24 4/22(火)19:00 5/10(土)19:00

愛情について (96分・35mm・白黒) NEW

夫と死別した路子(山根)は、5歳の娘と共に、信州から東京の実家に戻ったが、母親と兄一家、妹の5人が暮らす実家はすでに手狭だった。信州の義母は娘を引き取りたがっており、周囲は路子に娘を手放して再婚し、人生をやり直すことを勧めるが…。戦後、変化しつつある時代の女性の生き方を問う物語。2階建ての狭小住宅に住まう7人家族のリアルな生活描写は三浦の撮影設計に負うところが大きい。

1953(東宝)◎三浦光雄◎千葉泰樹◎水木洋子、井手俊郎◎河東安英◎芥川也寸志◎山根壽子、斎藤史子、滝花久子、二本柳寛、村田知英子、設楽幸嗣、杉葉子、見明凡太郎、英百合子、堺左千夫、藤原謙足、三國連太郎

25 4/20(日)16:00 5/8(木)15:00

雁 (104分・35mm・白黒)

森鷗外の小説を原作に、高利貸しの妾となった娘(高峰)と医学生(芥川)の間にひととき芽生えた愛情を繊細に描き、豊田四郎が戦後のキャリアの足かりを築いた作品。三浦は下町の昼夜の風景を陰影豊かに表現、人物の心理を投影したかのような雨のシチュエーションの美しさも特筆に値する。美術の木村威夫は、撮影を通じて三浦から「レンズを通して見ることの重要性」を教えられたと語っている。

1953(大映東京)◎三浦光雄◎豊田四郎◎森鷗外◎成澤昌茂◎伊藤嘉朗、木村威夫◎團伊玖磨◎高峰秀子、芥川比呂志、宇野重吉、東野英治郎、飯田蝶子、田中榮三、浦邊糸子、小田切みき、三宅邦子、伊達正

26 4/23(水)15:00 5/9(金)19:00

わたしの凡てを (98分・35mm・白黒)

八頭身美人として注目を集め、ミス・ユニバース・コンテストで受賞した伊東絹子の銀幕デビュー作。許婚の死をきっかけに北海道から上京した娘(伊東)がファッションモデルとして成功していくさまを描く。空間の光と影を巧みに活かした三浦の撮影が、後半のファッションショー場面においても映画的な興行きを与えている。

1954(東宝)◎三浦光雄◎市川崑◎菊田一夫◎梅田晴夫、浅野辰雄◎阿久根豊◎服部良一◎池部良、有馬稲子、伊東絹子、上原謙、日高澄子、二本柳寛、加東大介、藤原釜足、塩沢登代路、沢村貞子、大川平太郎、山田巳之助

27 4/23(水)19:00 5/9(金)15:00

女性に関する十二章 (87分・35mm・白黒)

伊藤整のベストセラーを、原作者を劇中に登場させるなどメタ的な構成で映画化した市川崑の恋愛喜劇。学生時代から交際を続けるバレリーナのミナ子(津島)と銀行員の小平太(小泉)。昇進を契機としてようやく結婚に踏み切ろうとする小平太だったが、そんな矢先、ミナ子の身边にも大きな変化が生じ…。鏡の映り込みや俯瞰ショットなど凝った画面構成、終盤の海や空といった自然風景の撮影が秀逸。

1954(東宝)◎三浦光雄◎市川崑◎伊藤整◎和田夏十◎河東安英◎黛敏郎◎津島恵子、小泉博、有馬稲子、久慈あさみ、上原謙、太刀川洋一、中北千枝子、小泉澄子、三好栄子、坪内美子、徳川夢声



雁

28 4/24(木)15:00 4/30(水)19:00

むきぶえ 麥笛 (103分・35mm・白黒)

室生犀星の自伝的短篇「性に眼覚める頃」の映画化。詩の投稿を共通の趣味とする寺の住職の息子・伸夫(久保)と髪結いの息子・表(太刀川)。ある日、2人は同じ茶屋の娘、お玉(青山)に恋をしてしまう。原作は大正時代の金沢だが、映画では舞台を倉敷に変更。美しい構図で街並みを捉えた三浦の撮影が、映画から溢れ出る抒情性に大きな効果をあげている。

1955(東宝)◎三浦光雄◎豊田四郎◎室生犀星◎池田一郎◎河東安英◎團伊玖磨◎久保明、青山京子、太刀川洋一、越路吹雪、志村喬、中北千枝子、三好栄子、浪花千栄子、浜田百合子、藤原釜足、塩沢登代路、左卜全、三条利喜江

29 4/24(木)19:00 5/10(土)16:00

夫婦善哉 (120分・35mm・白黒)

織田作之助の同名小説の映画化で、豊田四郎の戦後の代表作。大阪・船場の化粧問屋の放蕩息子(森繁)と駄目な男と知りつつ彼に惚れ込んだ女(淡島)の腐れ縁を描く。時に寄り添い、時に激しく対立する2人の身体の捉え方や雪の降る法善寺横丁など、動と静を鮮やかに映し出す三浦のカメラが情感豊かな豊田の演出と絶妙にマッチしている。

1955(東宝)◎三浦光雄◎豊田四郎◎織田作之助◎八住利雄◎伊藤嘉朗◎團伊玖磨◎森繁久彌、淡島千景、司葉子、浪花千栄子、山茶花究、小堀誠、田中春男、田村樂太、森川佳子、志賀迺家弁慶

30 4/25(金)19:00 4/27(日)13:00

白夫人の妖恋 (103分・35mm・カラー)

中国の民話「白蛇傳」を下敷きにした日本と香港の合作映画。東宝のカラー特撮第1作であり、豊田四郎と三浦にとっても初のカラー作品となった。撮影に際しては巨大な街並みのセットを設え、クライマックスの大洪水など大量の水を投入。三浦はじめスタッフは機材もろとも水浸しとなって撮影を進めたという。三浦はこれにより4度目の日本映画技術賞を受賞。

1956(東宝=ショウ・ブラザーズ)◎三浦光雄◎豊田四郎◎榎本美津子◎円谷英二◎林房雄◎八住利雄◎三林亮太郎◎團伊玖磨◎池部良、山口淑子、八千草薫、徳川夢声、上田吉二郎、清川虹子、田中春男、東野英治郎、小杉義男、谷晃、左卜全

31 4/19(土)18:45 5/7(水)15:00

猫と庄造と二人のをんな (135分・16mm・白黒)

谷崎潤一郎の小説の映画化。芦屋を舞台に、甲斐性のない夫(森繁)、気の強い妻(山田)、夫の自由奔放な愛人(香川)、愛人の持参金目当てに妻を追い出したい姑(浪花)、それに1匹の猫が織りなす業と業のぶつかり合いを描いた豊田四郎の傑作。これが遺作となった三浦は俳優にはノーメイクを指示。全篇の照明をレフによる反射光のみで通す試みで、「人間の素顔を見せたい」という豊田の狙いを的確に表現した。

1956(東京映画)◎三浦光雄◎豊田四郎◎谷崎潤一郎◎八住利雄◎伊藤嘉朗◎芥川也寸志◎森繁久彌、香川京子、山田五十鈴、浪花千栄子、萬代峰子、三好栄子、南悠子、芦乃家雁玉、林田十郎、田中春男、山茶花究



夫婦善哉



愛よ人類と共にあれ



女性に関する十二章



猫と庄造と二人のをんな



白薔薇は咲けど



婦系圖



東京の門

伴奏付上映出演者〔出演順〕

上屋安由美 (かみや・あゆみ) / 作曲、ピアノ
愛知県名古屋出身。桐朋学園大学音楽学部作曲専攻卒業、同大学研究科修了。同大学音楽学部附属子供のための音楽教室ソルフェージュ講師。これまでポルデノーネ無声映画祭、東京国際映画祭等に出演。ピアノを故・松岡晴子、三輪郁、作曲を三瀬和朗、大家百子の各氏に師事。



柳下美恵 (やなした・みえ) / 即興、ピアノ
武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。1995年、映画生誕百年祭「光の生誕 リュミエール!」以来、国内外の映画館、映画祭で伴奏多数。欧米スタイルの無声映画伴奏(活動弁士の語りが無い音楽による伴奏)を日本で普及し、「映画館にピアノを!」、「ピアノ&シネマ」、「ピアノdeフィルム」など映画館の上映環境作りに注力している。



天池徳高 (あまいけ・ほだか) / 作曲、ピアノ
東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。2003年、フィルムセンター(現・国立映画アーカイブ)の特集「小津安二郎の藝術」にて、初めてサイレント映画の伴奏を担当。作編曲活動に加えて、パレエのレッスンピアニストとしても活動している。



国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。

FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

展示室(7階)

〔企画展〕 常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

ポスターでみる映画史 Part 5 アニメーション映画の世界

Film History in Posters Part 5: Animation Films

2025年4月8日(火)―7月27日(日)

* 月曜日、7月8日(火)―13日(日)は休業

主催: 国立映画アーカイブ

映画の誕生から130年の節目を迎える本年、幅広い年代や国のアニメーション映画の系譜を、NFAJが所蔵するポスターなどの資料から網羅的にたどります。ハリウッドのカートゥーン映画、欧州各国の特徴ある作品、そして日本が誇る名作の数々にも重点を置き、この映画文化が形作った大いなる潮流を振り返ります。

開室時間=11:00-18:30(入室は18:00まで)

* 4/25、5/30、6/27、7/25の金曜日は開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)

料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料
* 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。
* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

* 国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

* 5月18日(日)「国際博物館の日」は、無料でご覧いただけます。

* 詳細は本展のチラシまたは国立映画アーカイブのHPをご覧ください。

常設展ギャラリートーク

原則として毎月第一土曜日

* 詳細はホームページをご覧ください。

▶ チケット購入方法

	一般	高校・大学生・65歳以上	小・中学生	障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで)	キャンパスメンバーズ(教職員)	キャンパスメンバーズ(学生)
通常料金	520円	310円	100円		無料	
特別料金(♪印の回)	1,050円	840円	600円	無料	500円	400円
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで					
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売					

* 電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトにてオンライン販売します。

* 料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、国立美術館のキャンパスメンバーズは証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

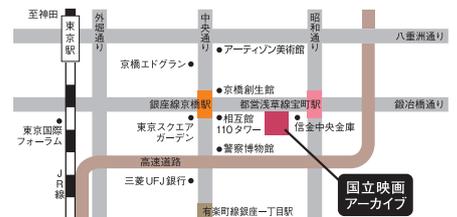
* 未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

▶ 入場方法

* 開場は開映30分前です。

* チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名はチケットに表示されませんので、お間違いないようご注意ください。

* 各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口より徒歩5分
JR東京駅八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600
ホームページ: www.nfaj.go.jp



国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

撮影監督 三浦光雄

Cinematographer Mitsuo Miura

4月	8 曜		15:00 ③ 榮冠涙あり (110分)	19:00 ④ 雁來紅 (96分)
	9 曜		15:00 ⑥ 白薔薇は咲けど (77分)	19:00 ⑤ 女人哀愁 (74分)
	10 曜		14:00 ⑦ 禍福 前篇/後篇 (計153分) *途中休憩あり	19:00 ⑧ 藤十郎の戀 (95分)
	11 曜		15:00 ⑨ 多甚古村 (63分)	19:00 ⑩ 虞美人草 (88分)
	12 曜	13:00 ② 腰辨頑張れ/嬉しい娘 ★ (計89分)	16:30 ① 愛よ人類と共にあれ (241分)	*途中休憩あり
	13 曜	12:00 ⑩ 妻の場合[前篇・后篇] (150分) *途中休憩あり	16:00 ⑭ ハワイマレー沖海戦 (116分)	
	15 曜		15:00 ⑬ 婦系圖 (108分)	19:00 ⑮ 若き姿 (81分)
	16 曜		15:00 ⑯ 明日を創る人々 (83分)	19:00 ⑰ 今ひとたびの (118分)
	17 曜		15:00 ⑱ 東京の門 (100分)	19:00 ⑲ せきれいの曲 (99分)
	18 曜		15:00 ㉓ わかれ雲 (96分)	19:00 ㉒ 朝の波紋 (103分)
	19 曜	12:00 ⑫ 川中島合戦 (119分)	15:20 ⑧ 藤十郎の戀 ★ (95分)	18:45 ㉑ 猫と庄造と二人のをんな (135分)
	20 曜	13:00 ㉒ 煙突の見える場所 (108分)	16:00 ㉔ 雁 (104分)	
	5月	22 曜		15:00 ㉖ 春の囁き (92分)
23 曜			15:00 ㉗ わたしの凡てを (98分)	19:00 ㉙ 女性に関する十二章 (87分)
24 曜			15:00 ㉚ 麥笛 (103分)	19:00 ㉜ 夫婦善哉 (120分)
25 曜			15:00 ② 腰辨頑張れ/嬉しい娘 ♪ (計89分)	19:00 ㉞ 白夫人の妖恋 (103分)
26 曜		12:00 ① 愛よ人類と共にあれ ♪ (241分)	*途中休憩あり	18:30 ③ 榮冠涙あり ♪ (110分)
27 曜		13:00 ㉜ 白夫人の妖恋 (103分)	16:00 ⑰ 今ひとたびの (118分)	
29 曜		13:00 ⑤ 女人哀愁 (74分)	16:00 ④ 雁來紅 (96分)	
30 曜			14:00 ⑩ 妻の場合[前篇・后篇] (150分) *途中休憩あり	19:00 ㉚ 麥笛 (103分)
1 曜			15:00 ⑯ 明日を創る人々 (83分)	19:00 ㉒ 煙突の見える場所 (108分)
2 曜		12:00 ⑧ 藤十郎の戀 (95分)	15:00 ⑲ せきれいの曲 (99分)	19:00 ⑭ ハワイマレー沖海戦 (116分)
3 曜	12:00 ⑥ 白薔薇は咲けど (77分)	15:00 ⑦ 禍福 前篇/後篇 (計153分) *途中休憩あり		
4 曜	13:00 ㉖ 春の囁き (92分)	16:00 ⑱ 東京の門 (100分)		
6 曜	13:00 ⑩ 虞美人草 (88分)	16:00 ⑫ 川中島合戦 (119分)		
7 曜		15:00 ㉑ 猫と庄造と二人のをんな (135分)	19:00 ⑬ 婦系圖 (108分)	
8 曜		15:00 ㉔ 雁 (104分)	19:00 ⑨ 多甚古村 (63分)	
9 曜		15:00 ㉙ 女性に関する十二章 (87分)	19:00 ㉗ わたしの凡てを (98分)	
10 曜	13:00 ⑮ 若き姿 (81分)	16:00 ㉜ 夫婦善哉 (120分)	19:00 ㉘ 愛情について (96分)	
11 曜	13:00 ㉓ わかれ雲 (96分)	16:00 ㉒ 朝の波紋 (103分)		

■★印の回はトークがあります。 ■♪印の回は伴奏付上映です。

■各日11:00に開館します。

表紙：三浦光雄 スナップ写真